

淀川の治水・利水の歴史は、国の治水史でもある。

淀川流域には古来より国の中心として、都が繁栄しました。洪水から人々の生活や神仏殿などを守り、水の恵みをいかに活用するかが重要な政策でした。まさに淀川の治水・利水の歴史は、わが国の歴史。時代とともにその役割を変えながらも今日なお、人々と河川のより良い関係を考えたさまざまな取り組みが展開されています。

日本最古の堤防「茨田堤」

宇治川の水深を確保し、舟運利用を盛んにした「太閤堤」

淀川河口部の重要性を説き、安治川開削を行った河村瑞賢

近代河川史の幕開け。明治時代も国の発展の要となる「淀川」

大都市圏を支えるダム群

安全なまちづくり、快適な水辺空間の創造へスーパー堤防整備事業

自然と共生する豊かな未来を目指して

縄文・弥生・古墳時代の大阪平野と淀川流域

水田開発が進んだ古墳時代

都を中心に交通網が整備されはじめた中世

「淀川」を制し、商都大阪の基礎を築いた豊臣秀吉

淀川の洪水を防ぎ、京街道として繁栄した「文禄堤」

ケレップ水制

デ・レーク、エッセル

淀川の「洪水防禦計画」を作成した沖野忠雄

高度経済成長を支えた治水事業

淀川の舟運航路を計画したオランダ人技師団

紀元前

1世紀

5世紀

10世紀

15世紀

16世紀

17世紀

18世紀

19世紀

20世紀

21世紀